

平成 30 年度 嶺 保育園 自己評価

園長 山内幸子

本園では、保育の質の向上を図る為に「保護者アンケート」「保育士の自己評価」を実施しました。それらの結果を基に良い点、改善すべき点を精査し、より良い保育を提供できるよう努力してまいります。

評価について A－よくできている

B－ほぼできている

C－努力が必要

1. 本園の保育理念・保育観

- ① 保育士一人一人が、理念・保育方針・保育目標を理解している。 A

今後も、園内研修や職員会議を通して、経験年数にかかわらず全職員により、保育方針・保育目標を理解した上で、保育計画策定し協力し合っていきたい。

- ② 保育士一人一人が自己評価を行い、その問題解決のため向上心を持って取り組んでいる。 A

キャリアパス研修を始め、その他の園外研修に参加することにより保育士としての成長につながったと思う。専門家としての知識を得るよう個々に研鑽を積む努力をしている姿がみられた。

2. 保育計画・指導計画

- ① 保育方針のねらい及び内容が、達成できるような保育課程になっている A

- ② 保育計画に基づいて、子どもが安全に生活できる清潔感のある環境を構成している A

- ③ 3歳未満児と、配慮の必要な子にはその子に応じた保育計画をたてている A

園の保育理念・保育方針を良く理解したうえで保育計画を作成して、年齢にあった環境設定をし、保育士自ら保育の評価反省を行っている。今後も乳児期への関わりと発達的重要性を再認識し、職員全体で引き続き研修を重ねる必要がある。

3. 食育

- ① 食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている。 A
- ② 園長、栄養士、保育士が連携し、毎月会議を開き意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている。 A
- ③ 給食やおやつは手作りをしている。 A
- ④ 季節や行事に合わせたメニューを考えている。 A

本園の畑で自分たちが育てた様々な食材を実際に食することで、命の大切さへの興味を持たせている。今後も引き続き自分たちで野菜を育て、栄養士と協力して少しずつメニューを増やしていきたい。

4. 職員構成・分割分担・研修

- ① 職員の仕事の分担を明確にし、連携をとって円滑な園運営ができている。 A
- ② 危機管理意識を持ち緊急時に対応できる体制ができている。 A
園内での責任分担や連携は取れているが、緊急時には想定外の出来事が起こりうることから地域の方々との協力が必要と考えられる。そのために、綿密な連携の必要性を感じている。
- ③ 職員が各委員会に所属し、園の保育や内容を深めるために、活発に活動している。 A
- ④ 園内研修と園外研修の計画を立て実行している。 A

5. 保護者支援

- ① 一人一人の保護者と日常的な情報支援をしたり、良好な関係を作ろうとしている。 B
送迎の短い時間の中で、細かな情報交換をするのは難しいことであるが、今まで以上に、連絡ノートを活用に加えて、個別面談なども行っていきたい。
- ② 園だより、クラスだよりにより、保育実践の内容や意図、子どもたちの園内での様子をわかりやすく伝える努力をしている。 A
- ③ 子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するように努めている。 A

- ④ 園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している。 A
保護者支援の下、保護者の心に寄り添う努力が見られた。また、
経験の浅い保育士に少しずつ保護者の接し方を指導する先輩保育
士の姿も見られる。

6. 子育て支援

- ① 地域の子育てをしている親子の交流の場となるよう努めている。 A
② 子どもの心身の発達や育児不安について、気軽に相談できるよう
にしている。 A

月1回の園庭開放には、近隣の若いお母さん方の参加があり、未
入園のお子さんと、乳児クラスの子どもたちが一緒に遊ぶ楽しい交流
をしている。その後、子育て経験のある保育士と茶話会を設け気軽に
話す機会を作っている。

7. 地域社会との連携

- ① 高齢者施設との交流を深め、高齢者の方を敬う気持ちを育ててい
る。 A

養護老人ホーム2ヶ園に訪問したり、老人スポーツ大会で鼓笛演
奏を披露するなど、お年寄りとのふれあいを持つことで敬う気持ち
を忘れず、優しい気持ちを持つことができています。

- ③ 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れるととも
に園内での子ども様子を伝えている。 A

地域の夏祭り、お相撲大会、音楽祭参加などの経験を積むこと
で子どもたちの自信につながり、地域の一員としての自覚が少しづ
つ育っている。

- ④ 中高生の保育体験を積極的に受け入れている。 A

卒園生の実習も多く、子どもたちも大変喜んでいる。また、地域
の避難所でもある中学校訪問を実施させていただくことで、中学生
との交流を持つとともに緊急時の避難経路の確認にもなっている。